

二極化するDX

生き残るために企業がとるべきアクションとは



株式会社インフォメーション・ディベロップメント
山陰事業部 クラウドマネージドセンター
センター長 三好 敏明

三好 敏明 (Miyoshi Toshiaki)

(株) インフォメーション・ディベロップメント入社より金融系の運用・インフラ開発業務に従事後、インフラ事業部長に就任。

120名の組織を牽引しつつ、レガシー事業からの脱却を掲げ、自社クラウドビジネス(ID-Cross)を立ち上げる。現在もID-Crossのアップグレードを図りながら、各企業のDXを支援すべく、ウェビナー活動にも力を注ぐ。

所属/役職：

株式会社インフォメーション・ディベロップメント

山陰事業部 クラウドマネージドセンター センター長

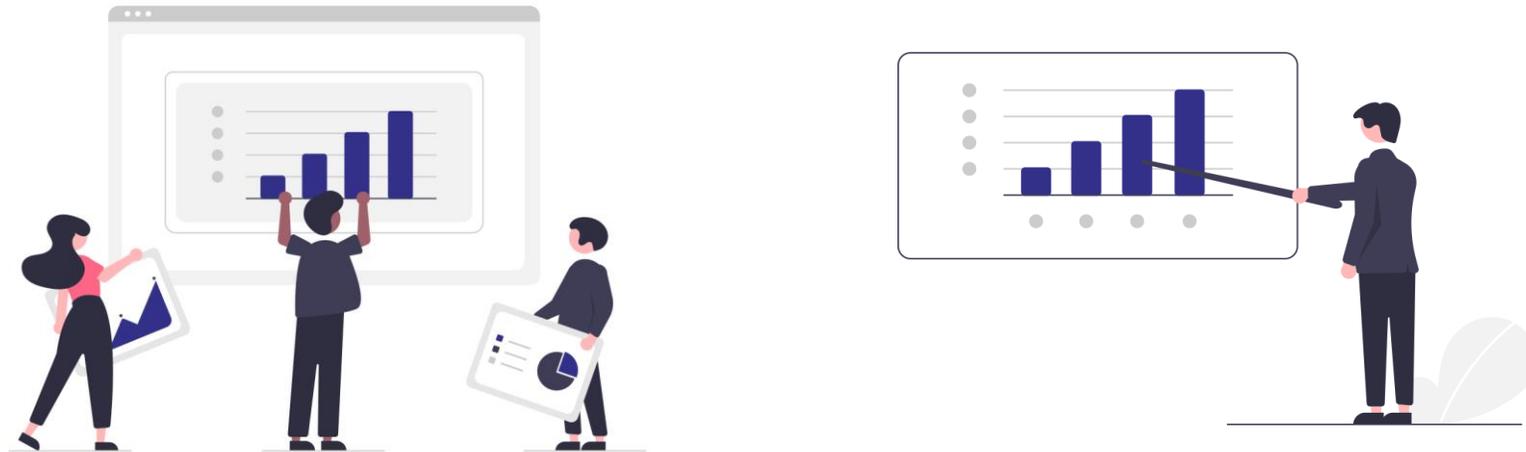
弊社紹介

会社名	株式会社インフォメーション・ディベロプメント
本社所在地	東京都千代田区五番町12-1 番町会館
設立	2019年 4月1日 (IDホールディングス 1969年10月20日)
代表者	代表取締役社長 山川 利雄
資本金	4億円
従業員数	単体 1,277名(単体) 2,555名(連結) (2021年4月1日現在)
上場	株式会社IDホールディングス (持株会社) 東京証券取引所 市場第一部 証券コード : 4709



本資料のねらい

DX推進を阻む「壁」を理解し、具体的な解決方法を示すこと



アジェンダ

1. DX推進の現状
2. クラウド利用で抑えるべきポイント
3. 企業のDX推進に向けてすべきこと
4. サービス紹介

1. DX推進の現状

企業のDX取組み状況（経済産業省DXレポート2）

✓ **9割** がDX未着手・途上

✓ サービスを活用した

ファーストステップが必要



デジタル企業

デジタルガバナンス・コード/DX銘柄

企業内に事業変革の体制が整い、
環境の変化に迅速に対応できる

レガシー企業文化
からの脱却

デジタル企業への変革プロセス

全体の9割以上

DX未着手企業

DXについて知らない

DX途上企業

DXを進めたいが、散発的な
実施に留まっている

DXの認知・理解



DX事例集の提供

知見を集める場の提供

直ちに（超短期）取り組むアクション

製品・サービス活用による
事業継続・DXのファーストステップ



ツール導入に対する支援

DX推進体制の整備



共通理解形成のためのポイント集の策定

CIO/CDXOの役割再定義

DX戦略の策定



DX成功パターンの策定

デジタルガバナンス・コード
業種別リファレンスケース

デジタルガバナンス・コード/DX認定

DX推進状況の把握



DX推進指標等

レガシー刷新の推進

短期的対応

産業変革のさらなる加速



ユーザー企業とベンダー企業の共創の推進

研究開発に対する支援

デジタル技術を活用する変革の支援

デジタルプラットフォームの形成



共通プラットフォーム推進

デジタルアーキテクチャ推進

DX人材の確保



リスキル・流動化環境の整備

中長期的対応

事業変革の環境整備

デジタル社会基盤の形成

人材変革

産業変革の制度的支援

二極化が進むDX推進（取り残される企業は敗者に？）

金融系基幹システムのクラウド移行

運用コストにおいて**40～60%**程度の削減



ソニー銀行、勘定系を含む全てのシステムに AWS の利用可能範囲を拡大

投稿日: Jan 20, 2020

AWS の東京リージョンおよび新しい大阪リージョンを活用

（東京、2020年1月20日発表）Amazon.com, Inc. の関連会社であるアマゾンウェブサービスジャパン株式会社は本日、ソニー銀行株式会社（以下、ソニー銀行）が、AWS の利用可能範囲について、勘定系を含む全業務に拡大する方針を決定したことを発表しました。ソニー銀行は現在、勘定系システムの移行から開始する方向で検討を始めています。

（出典 <https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2020/01/sony-bank-expands-aws-coverage-to-all-system/>）

小売業システムのクラウド移行

運用コスト5年で**30%**削減

AWS 導入事例：ミニストップ株式会社



“ AWS によって、ミニストップの給与システムと HP システムは、オンプレミスの 50% のリードタイムで構築することができました。運用コストも、今後 5 年間で約 30% の削減を見込んでいます。今後も業務システムから店舗システムまで、AWS に移行できるものはすべて持っていくオールイン体制を進めていきます。

地機 孝幸 氏

ミニストップ株式会社 オペレーション改善本部 システム部 部長

”

（出典） <https://aws.amazon.com/jp/solutions/case-studies/ministop/>



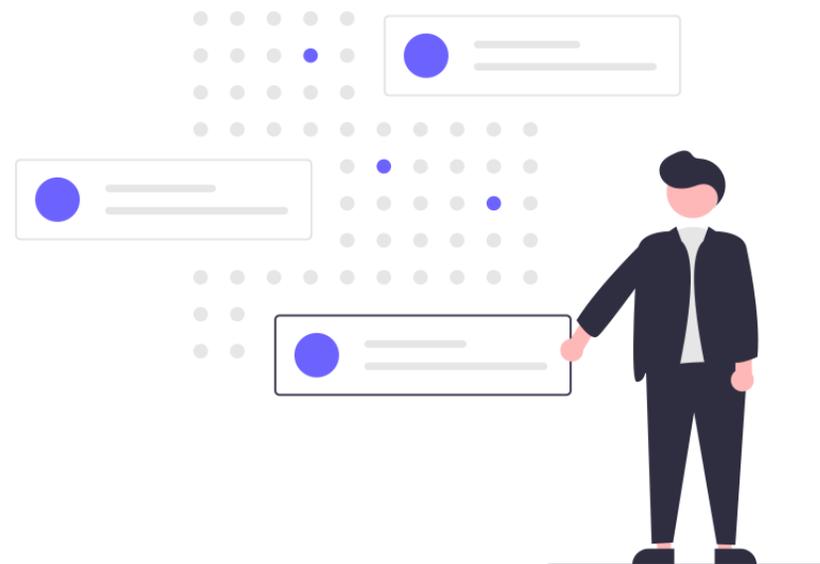
課題

- ✓ システム維持管理費が高額化し、IT予算の**9**割以上に。
- ✓ 保守運用の担い手不足でサイバー攻撃やデータ滅失が発生
- ✓ 国内企業の**4**割で「上司が**クラウドを理解していない**」

ガートナージャパン <https://t.co/1RGTPciWCE#クラウド>

インフラを取り巻くさまざまな課題

- ✓ 高額な維持保守
- ✓ 過剰なハードウェア投資
- ✓ 属人化・ブラックボックス化
- ✓ すぐに変えれない・失敗してもやめれない
- ✓ 時間とコストのかかるインフラ準備



課題解決には **クラウド化が不可欠**

セキュリティリスクを考慮したクラウド導入が必須

6億3,767万円

情報漏えい1件あたりの
平均損害賠償額

クラウド化自体が目的ではなく、

クラウド導入後、

いかにセキュアに効率良く利用するか 

2. クラウド利用で抑えるべきポイント

クラウドのセキュリティは利用側で管理・運用が必要

	セキュリティ対応項目	
データ	● 改ざん・漏洩防止対策（暗号化など）	
OS・アプリ	● パスワード管理 ● ユーザ・グループ管理	● アクセス管理 ● ログ管理(システムログ等)
クラウド	● ルートアカウント管理 ● IAMユーザ管理 ● セキュリティグループ管理 ● ログ管理(CloudTrail、VPCフロー等)	● ロール管理 ● WAF管理



昨年観測されたサイバー攻撃関連の通信数「5001億パケット」



国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) によるNICTER観測レポート2020より



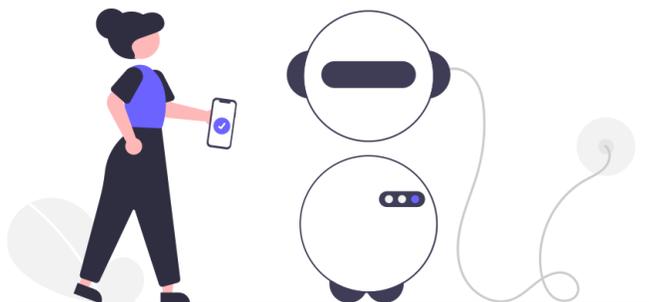
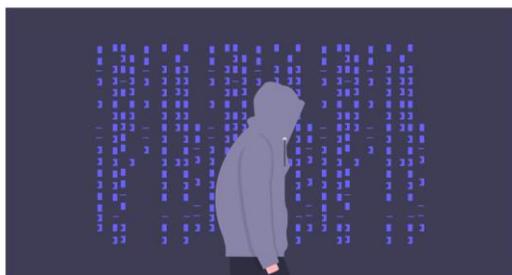
継続的にサイバーセキュリティ対策の状況を点検していくことがますます重要に

サイバー攻撃に対する備え

脅威

検知

対応



MSS
マネージドセキュリティ
サービス



24

脅威検知後の適切な対応

高度化する
サイバー攻撃

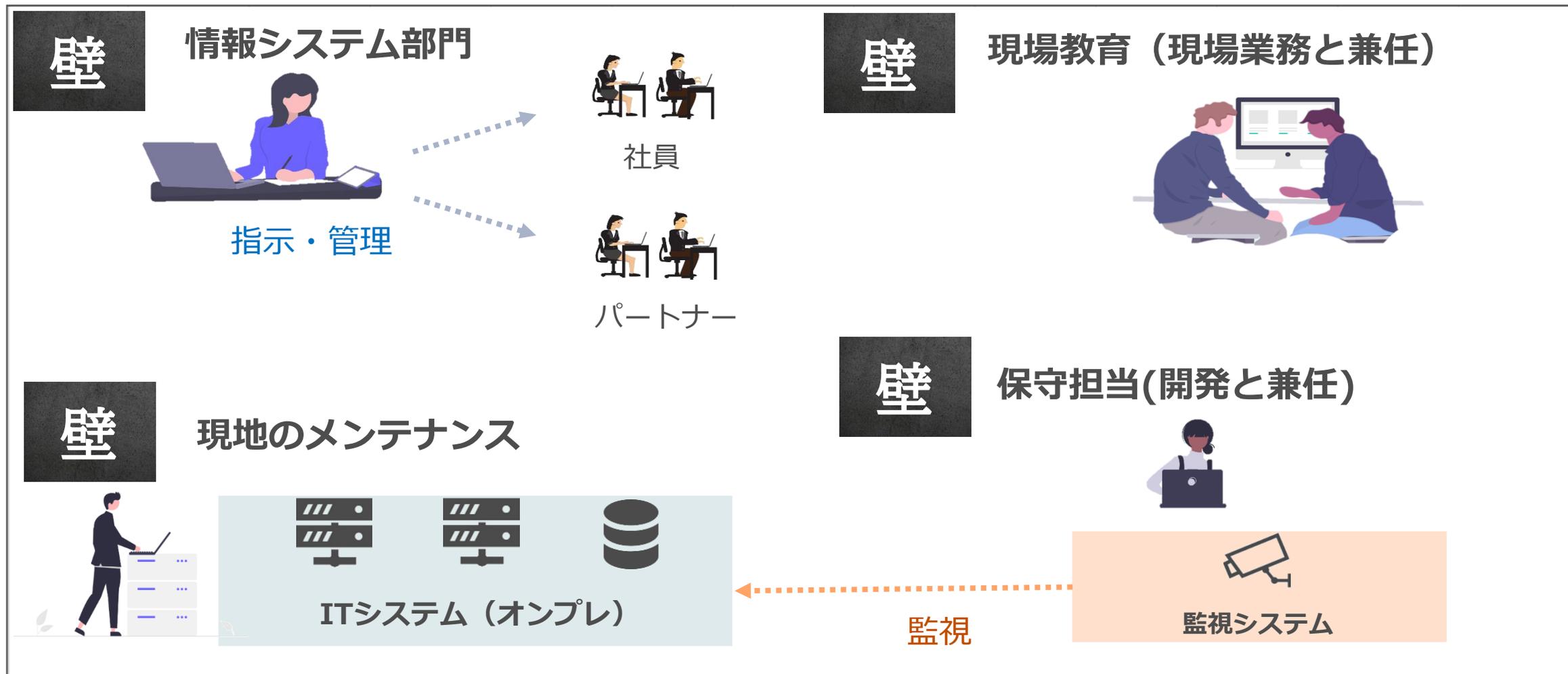
AI(機械学習)の活用

ネットワークの脅威検知
マルウェア検知

3. 企業のDX推進に向けてすべきこと

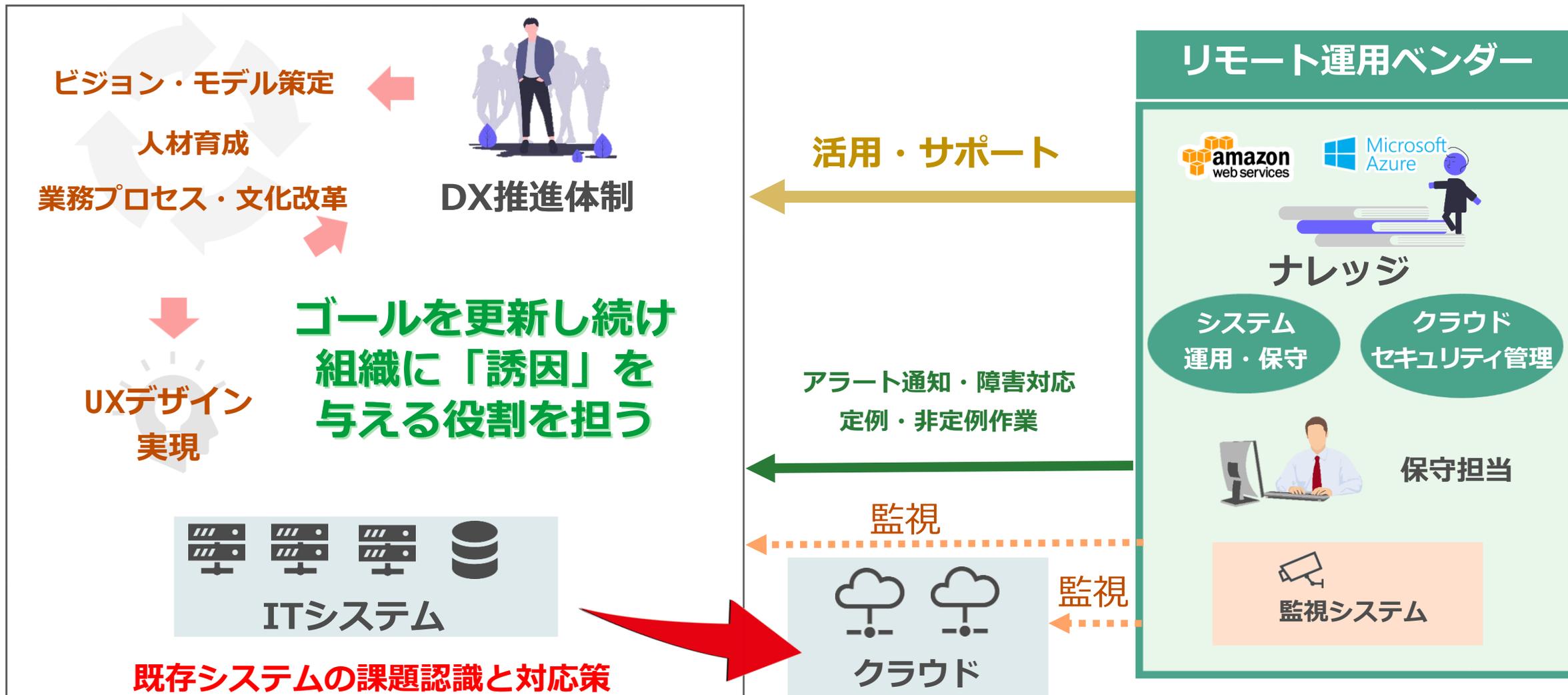
DX推進の **壁** がある現場

現場では目の前のタスクに追われ、DX推進のステップに進めないのが多くの企業の現状



【解決策】 DX推進体制の構築

DX推進には専用の体制構築が必要ですが、忙しい中での体制構築も簡単ではありません。そのような場合、リモート運用ベンダーの活用を提案いたします。



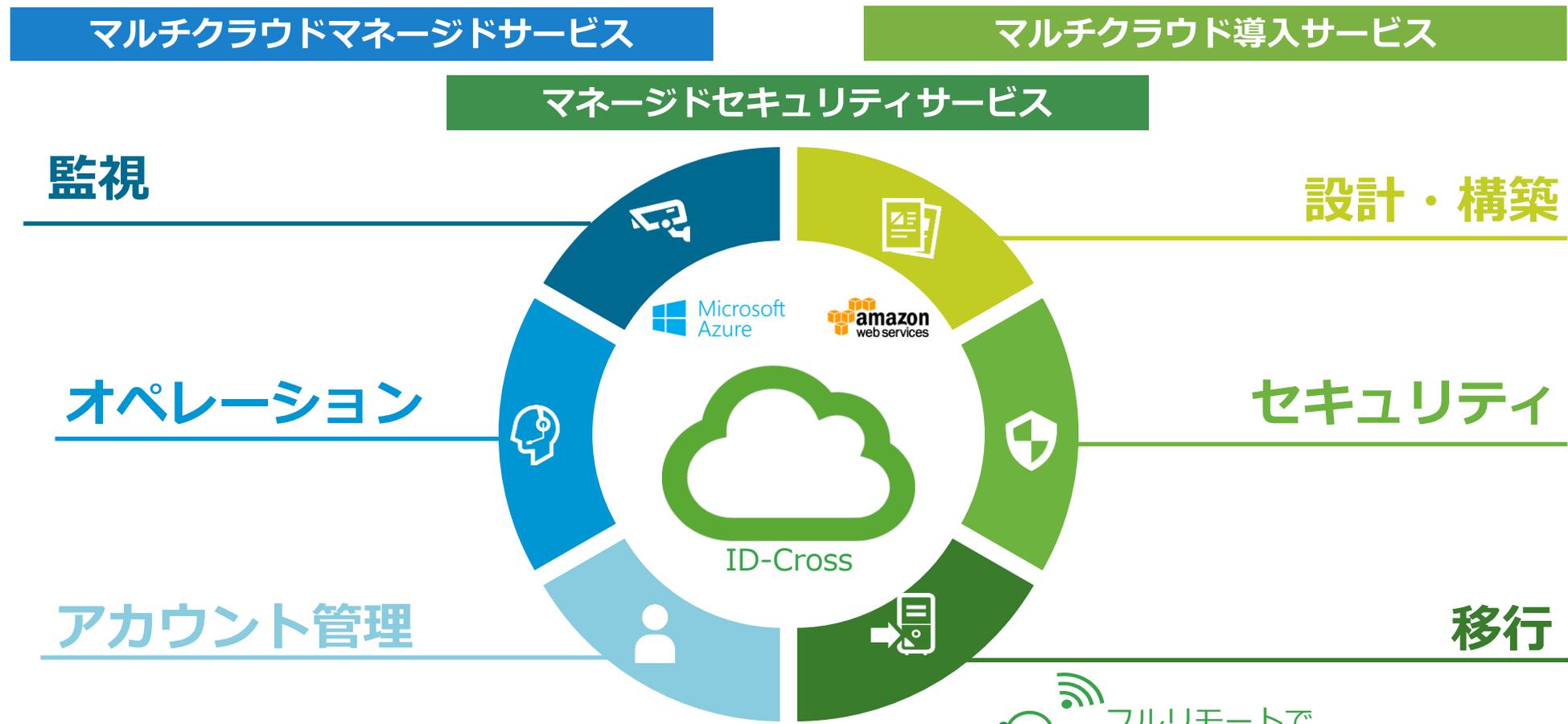
4. サービス紹介

ID-Cross

ご提案から設計・構築・移行、運用まで
一貫した体制で課題解決を支援いたします。

運用 50年 セキュリティ 20年の
実績を活かしたサービスを提供

クラウドサービスID-Cross(アイディクロス)は、クラウドの導入から管理、セキュリティの実装までトータルにサポートいたします。



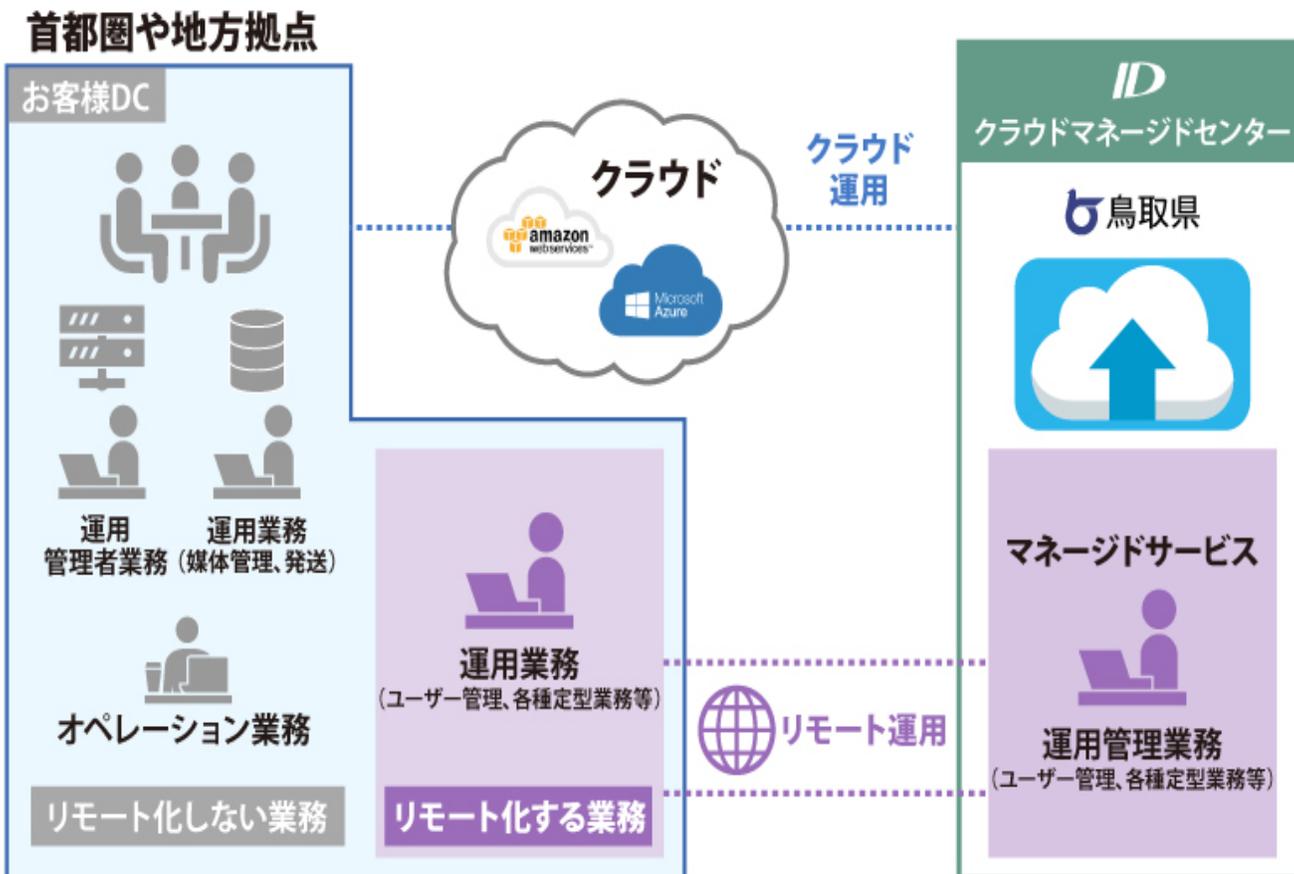
設備・セキュリティとも「Uptime Tier レベル」に準拠した安全かつ堅牢なIDグループのオペレーションセンター

フルリモートで
24時間365日サポート
IDクラウドマネージドセンター



リモート運用はクラウドマネージドセンターを活用

ID-Crossは鳥取県にクラウドマネージドセンターを設置。
首都圏や地方拠点へも包括的にクラウド運用をサポートできます。



Point

- ✓ 現場業務含め受託可能業務は全てリモート対応可
- ✓ 運用のスペシャリストによる対応
- ✓ ビジネスを通じて地方創生を推進



クラウドセキュリティの強化

独立系企業のため、お客様のニーズに応じたセキュリティソリューションを実装できます。
さらに導入システムの運用・保守のSOCサービスも展開しています。

Solution提案・導入



MVISION Unified Cloud Edge

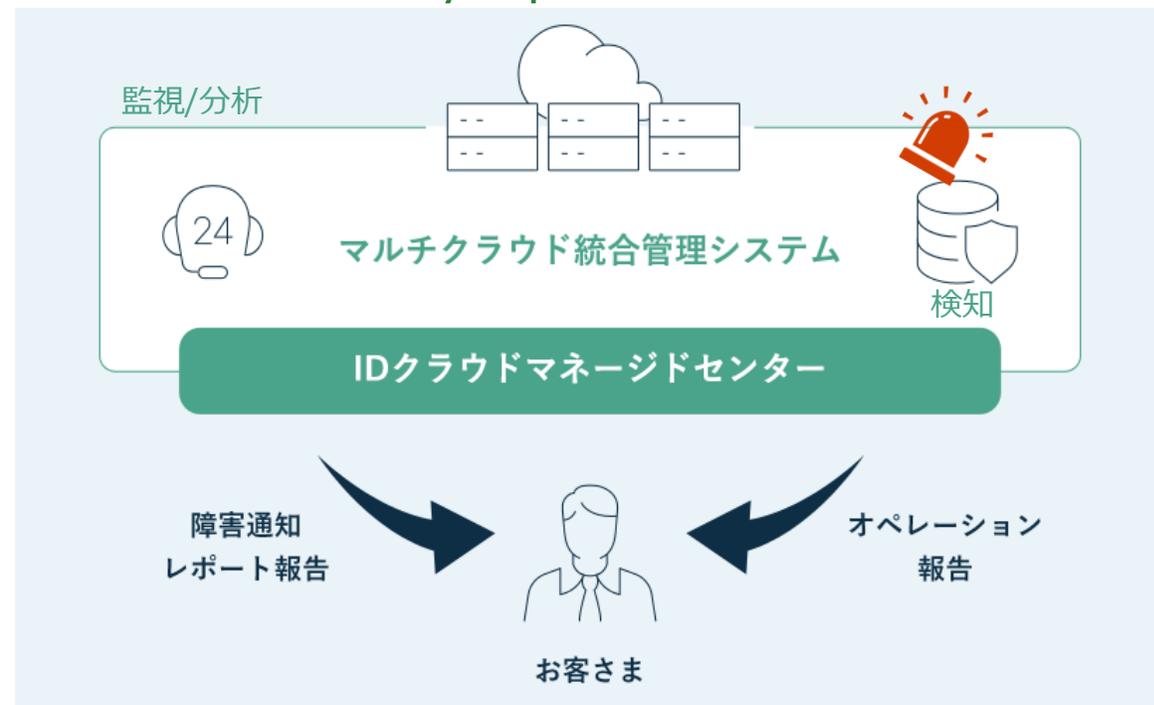
Azure Defender for IoT

OTサイバーセキュリティ



SOC サービス

Security Operation Center



まとめ

👉 Point 1

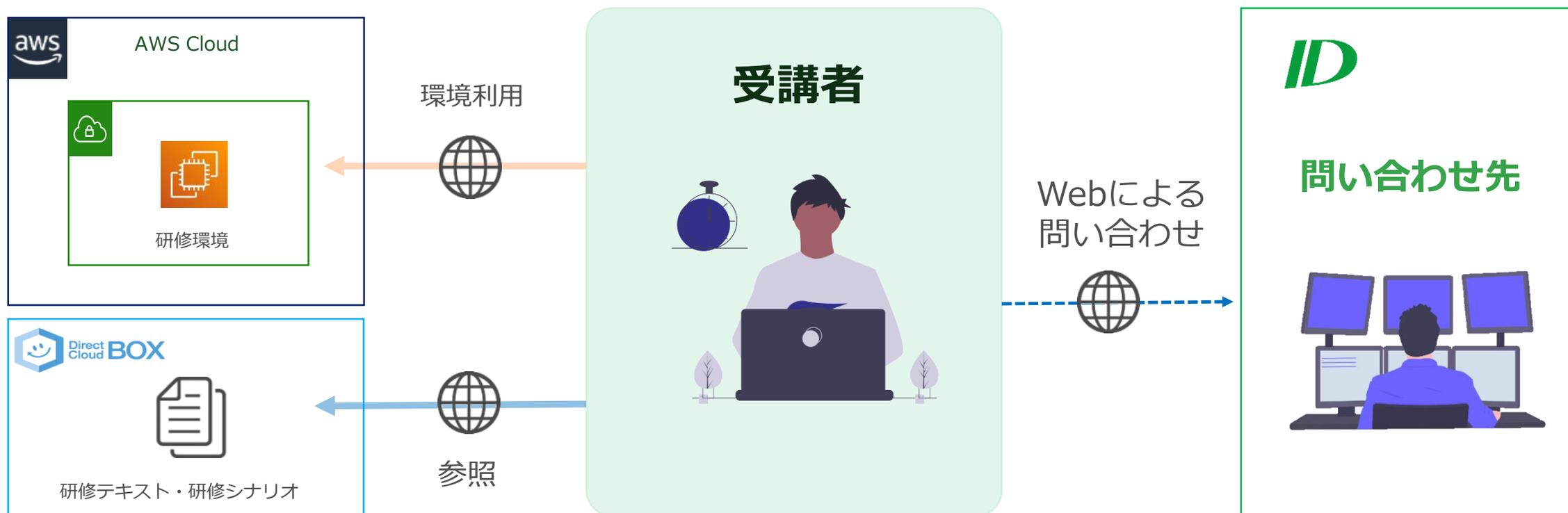
ID-Crossのリモート運用サービスをフル活用し、
自社にてDX推進体制の確立を

👉 Point 2

複雑になるクラウドセキュリティもID-Crossのリモート
運用サービスで保守サポート体制を万全に

人材育成サービス (AWS)

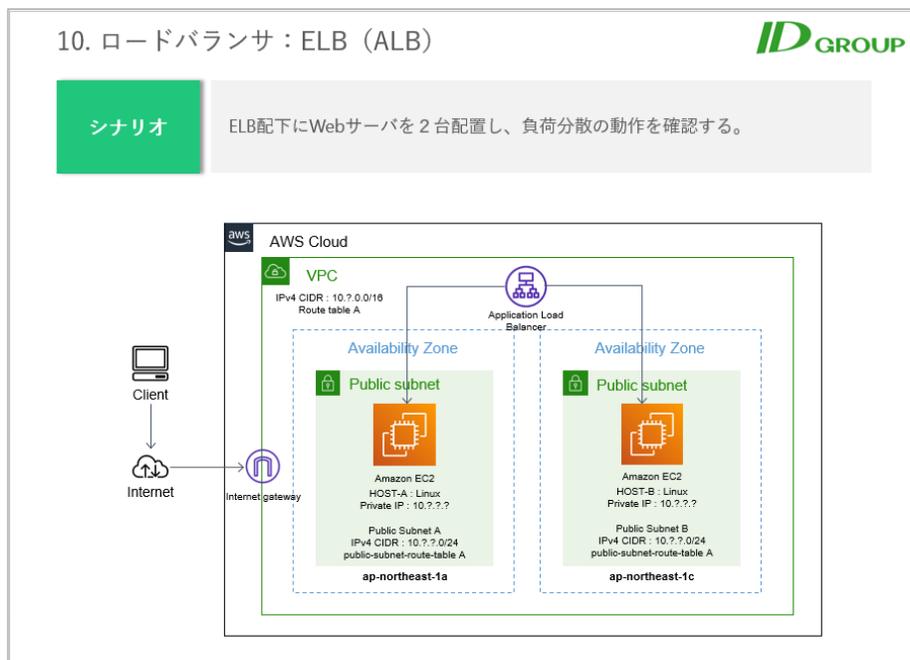
セキュアかつ効率的なクラウド導入・運用には高度なスキルを持つクラウド人材が必要です。
当社は独自の研修資材とクラウド環境を活用したリモート型人材育成サービスを提供しており、
クラウド人材の育成を今すぐ開始できます。



操作1つ1つが記載されたテキストで、講師不在の自主型研修を実現。
実践で使える設計・構築スキルが、場所と時間を問わず習得できます。

研修シナリオ

研修テキスト



Task 2 : 複数AZにEC2インスタンスを作成

- Task 2 : EC2インスタンスを作成
- 2-1-1. マネジメントコンソールの全てのサービスから [EC2] を選択します。
※画面上部の検索バーより「EC2」で検索することも可能です。
- 2-1-2. 画面左のナビゲーションペインにて、[インスタンス] をクリックします。
- 2-1-3. [インスタンスを起動] をクリックします。 ※2つ作成します。
- 2-1-4. RHELのマシンイメージ(AMI)を選択します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-5. インスタンスタイプを選択します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-6. [インスタンスの詳細の設定] をクリックします。
- 2-1-7. インスタンス数を設定します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-8. ネットワークを選択します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-9. サブネットを選択します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-10. 自動割り当てパブリックIPを設定します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-11. [ストレージの追加] をクリックし、設定します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-12. [タグの追加] をクリックします。
- 2-1-13. キーと値を設定します。 (設定値は右記参照)
- 2-1-14. [セキュリティグループの設定] をクリックします。
- 2-1-15. [新しいセキュリティグループ作成する] を選択します。
- 2-1-16. セキュリティグループ名を設定します。 (設定値は右記参照)

WEB-HOST-A	
設定項目	設定値
AMI	Red Hat Enterprise Linux 8 (HVM), SSD Volume Type - ami-xxxx
インスタンスタイプ	
すべてのインスタンスファミリー	現行世代
タイプ	t2.micro
インスタンスの詳細	
インスタンス数	1
ネットワーク	
サブネット	
自動割り当てパブリック IP	有効
ストレージ	「終了時に削除」にチェックが入っていることを確認 (デフォルト)
タグ	
キー	Name
値	
セキュリティグループ	新しいセキュリティグループを作成 次ページ「セキュリティグループA」を参照
キーペア	既存のキーペアを選択
キーペア名	

- 新たな新人研修の確立に（社員のやる気を醸成）
- クラウド業者に依存しない内部体制の確立に
- 組織におけるクラウドファーストの
マインドセットに

ハンズオン 研修

クラウドの研修環境を
利用し体験しながら
学べます

じっくり 3か月

ご利用いただける期間
は研修開始日から
3か月

選べる レベル設計

初級・中級・上級・応用、
目的やスキルに合わせ
選べます

有難うございました

[ID-Crossの料金や詳細資料DLはこちら](#)



マルチクラウド導入サービス × マルチクラウドマネージドサービス

ID-Cross

高度なセキュリティでクラウド化を実現
保守運用も低コスト・月額固定制

- スピーディーな設計・構築・移行サービス
- 専門部隊による高度なセキュリティ
- 月利用料の固定化を実現
- 充実の運用サポート



エンタープライズ営業部マーケティンググループ

TEL : 03-3262-1734

MAIL : marketing@idnet.co.jp